

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	東京大学
整理番号	B - I - 1
事 業 名	巨大複雑システム統括エンジニア育成に向けた国際協働教育プログラムの創出

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A⁻</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;"> 本事業は、世界的に著名な大学と連携している点に特徴があり、学部・研究科レベルで対話の場を設定し、Deans' Forumによる国際企業インターンシップの創設など、協働教育の実現に向けた努力が認められる。一方で、交換留学や研究者の交流など各大学個別の取組の有機的な関係は弱く、日本・米国・欧州の大学における国際的な協働指導体制の構築までは至らなかったため、今後の改善が望まれる。また、共同講義やセミナーなどの短期派遣プログラムに多くの学生が参加しているものの、プログラムの終了後、段階的に長期のプログラムへの参加を促進させるには一層の工夫が必要であり、質の保証を伴った大学間交流の枠組み形成に課題が残る。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及については、この取組全体が大学における国際化を推進するための様々な事業の一つとして位置付けられ、国際化に貢献しており、新たなホームページの立ち上げなど、事業成果に対する一定の広報活動も行われている。今後は、交流を行う相手大学とのネットワークに他大学も参加できるような仕組みの検討や、他大学や学外者の利益に資する情報の更なる積極的な発信が望まれる。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 派遣学生の交流数における目標の達成状況については、目標335人に対して実績は321人（達成率95.8%）で概ね達成していると言えるが、参加学生の内訳をみると、米国の大学については交換留学の派遣実績は少なく、単位取得の仕組みはあるものの「相互国際講義」などの短期プログラムの割合が高い。事業計画の主要相手大学であるMITとの学部レベルでの交換留学協定が計画より遅れて締結されており、質的な目標が十分に達成されたとは言い難い。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 今後の展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献については、東京大学で行われている他の国際事業との連携、世界トップクラスの大学との国際協働体制の強化など、多面的に推進することが望まれる。 </p>	